

グループホームはるすのお家・阪南					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有を心掛け、実践に向けて取り組んでいます。	各ユニット其々の理念が、各々玄関入口に提示されている。入職時に説明、またミーティング時等折に触れ話題にしながら身近なものとしている。	額に入れられ目には付くが、来訪者に“これが理念である”というアピールが足りないように感じられた。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との日常的な関わりは一部の職員、入居者様に限られてしまっています。	隣接地のルームクリーニング店や牛乳配達店の利用等、地域の店を利用している。西鳥取小学校4年生児童の訪問で、交流も続いている。こども110番の旗を掲げている。	地域の方が進んで手伝いを申し出て下さる事は有り難い事である。事業所としても、地域に還元出来る手伝い(清掃や個人商店の利用等)を考えてみられたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と協力の上、地域の事業所等と連携し勉強会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	寄せられた意見等を受け取り、更に良きホームになるよう活かしています。	今年度は、春と秋2回のみで開催であった。会議に市及び地域の方々の出席は得られていない。議題は、行事・日々の取り組みの報告・(春)外部評価の報告・(秋)インフルエンザ等予定・今後の予定・質疑応答。議事録はやや見辛い。	運営推進会議の日を予め設定しておく、出席者も都合を付け易く、市担当者・地域の方々にも出席を促し易い。議題の充実を図り、引き続き出席の要請を図られたい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	ホーム長を中心に市の介護保険課、地域支援センターなどの担当者と連絡を取り、良い関係を保てていると思います。	市担当課へは事ある毎に足を運び、相談事など持ち掛けられる体制作りが出来ている。運営推進会議へは、今年度出席頂けていない。	市の担当者には是非運営推進会議へ出席頂き、実情を見て頂くと共に、アドバイスや意見を述べて頂きたいものである。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	ユニットミーティングや職員との情報交換の中で話をし、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	本年1月には各ユニットで、「身体拘束・虐待防止」の内部研修を行った。玄関及び各ユニットの出入り口は施錠しておらず、自由に庭に出入り出来る。	今後も「身体拘束をしないケア」に取り組まれたい。言葉での暴力・威圧感を与える行為など、身近な振る舞いについても注意を喚起されたい。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待・拘束となる事例をあげ、ミーティング等で理解を求め、見過ごされる事の無いようにしています。		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方がいる為、職員への理解を勧めています。また、社会福祉協議会の担当者から制度の利用について説明を受けており、連携も大切にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、事業次長が立ち会い不安なく契約が出来る場を設けています。また後日の不安等に対してもホーム長が速やかに対応するようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設置しています。意見・要望等は記録に残し対応しています。また、家族様が来設の際には声を掛け要望等を聞くようにしています。	家族の来訪は多く、その時を利用して口頭で話を伺う事が多い。常日頃から意思疎通に心掛けており、各家族とは良好な関係である。公共の苦情受付窓口を1階玄関に明示している。	運営推進会議への家族の出席は多く、今回の外部評価でのアンケートも非常に高い回収率であった。家族とホームの良好な関係が伺える。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	意見・提案等を大切にし、必要に応じて事業次長へ報告しています。また、必要に応じて個別面談も行っています。	ミーティング時に意見や提案が出されている。又、普段から管理者・ユニットリーダーに口頭で述べられる。意見や提案はミーティング時に検討され、より良い支援へと結びつくよう話し合われている。	管理者は職員の給与アップを本社に掛け合うなど、常に職員の事を気にかけている。職員からの信頼も厚いと感じられた。勤続年数が長い職員も多い。毎日の支援が慣れに流されていないか、時には見直してみる事も大切と考える。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場作りが出来るよう心掛けています。パート職員の給与が上がるように努めているが、良い結果へつながっていない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員不足もあり外部研修への参加が出来ていないので、勧めていきたい。内部研修を増やしケアの質を高めていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内の事業者連絡会等に積極的に参加し、情報交換や交流が取れていますが、一部の職員に限られてしまっています。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築く為にも寄り添う時間を作り、不安を解消出来るように、環境作りにも配慮し関わるように心掛けています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様のこれまでの悩みや不安を聞き、今後の生活への要望等を聞く時間を設けています。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様からの情報だけでなく、本人様との面談等を行い、必要となる支援を検討し対応しています。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活する家族の一員と捉え一緒に過ごす時間を大切にしています。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来設の際には、状態の報告だけでなく、共に過ごす時間を大切にしてもらっています。家族様との信頼関係も大切にしています。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出に特に制限は無く、関係を継続出来るよう家族様にも理解を求めています。また、気軽に立ち寄ってもらえるホーム作りにも心掛けています。	入所前まで通っていた理髪店に引き続き通い、帰りに本屋で雑誌を購入する入居者や、家族と共に神社や墓参りをされておられる入居者がおられる。 今後も本人が望む場所や人との関係が継続されるよう、支援をお願いします。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が共に関わりが持てるように支援しています。状況にも寄りますが、お互いに声を掛け合う光景が見て取れます。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後も、必要に応じて相談等の支援を続けていけるが、積極的には、行えていない。	

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに気付き、その人らしい生活が送れるよう支援しています。	"表情やちょっとした変化にも気づいて欲しい"と、職員への指導を行っている。入居者の思いを汲み取りながら、笑顔を導けるような支援に努めている。	入居間もない方も数名おられる。一日も早くホームに馴染まれ、思いに副った支援がなされるよう願っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時に家族様より情報をいただき活用しています。また、ご本人様からの話も記録に残し、職員間で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の入居者様の状態の把握を大切に記録にも残しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状態を把握し、ご本人様の意見、ご家族様の意見を取り入れてケアマネジャーを中心にケアプランを作成しています。毎月のモニタリングや家族様からの要望を聞き、必要に応じてプランの見直しも行っています。	家族には毎月の便りの中でケアプランの要望を伺い、医師からは往診結果を頂いた上で、参考にしながら介護計画を立てている。目標設定は、短期3ヶ月・長期6ヶ月とし、必要に応じて見直しも行っている。	目標設定は、普段の生活の中で実践できるような身近なものとし、達成感や張り合いが得られるようなものが望ましいと考える。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を支援記録として残し、職員間で共有をしています。また毎月のモニタリングにも活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの生活を続ける事を大切に考えていますが、状況に応じご家族様と相談し対応出来るようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様の協力が必要にもなりますが、地域の一員としての生活が送れるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族様の希望を尊重し、適切な医療が受けられるように支援しています。また、ホームとの連携医療機関とも良い関係を保っていると思います。	月に2回協力医療機関からの往診があり持病の管理、投薬等も行なう。通院は原則として利用者家族又は代理人が行なう。希望者は訪問歯科治療、口腔ケアを週に一度受ける事が出来る。	今後も入居者が安心して生活できるように医療機関と連携して支援されたい。

31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週に1度の訪問ですが、看護師と情報の共有を大切にし、また看護師からの助言もいただき日々のケアにつながり、良い関係が保たれていると思います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ホーム長を中心に医療機関との連絡も速やかに行うようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけてのご本人・ご家族様の考えを聞く体制を取っています。その時々で速やかな対応が出来るようにしています。看取り指針を作成し、住み慣れたホームでの看取り介護も行っています。	入所時の確認に加え、看取り介護についての同意書と重度化した場合における（看取り）指針が準備され職員全員が共通意識を持ち一定の研修を受けている。実際にホームでの看取り介護を数名行っている。	入居者にとって住み慣れた第二の我が家ともいふべき場所で家族や馴染んだ人に看取られることは終末期を心穏やかに過ごすことに繋がる。今後も尊厳あるターミナルケアに取り組まれない。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の観察ポイント等の対応方法の理解は出来ているが、定期的な訓練は行えておらず、口頭での伝達になってしまっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災機器の使用方法的確認は定期的に行っているが、地域への働きかけは出来ていない。市役所・消防の意見を取り入れ対応していきたい。	毎年消防の立入検査が入っている。入居者参加の全体避難訓練については3月に消防立会での訓練を予定している。消防署がすぐ近くなのでもしもの時には逃げるよりもまず連絡をとる助言を受けている。スプリンクラーは設置済。	事業所が海の近くなので地震、津波の時の避難については地元の自治会や近所の協力なしには難しい。阪南市も含めてぜひ相談され、いざという時に力を借りることが出来るようにされたい。備蓄品については消費期限の問題があり、なかなか完璧にはいかなくとも継続的に更なる充実を願う。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々を尊重し、個々に合わせた言葉使いを心掛けています。	言葉使いには気をつけ、ユニットマネージャー、ホーム長を中心にお互いに気をつけ合っている。いつも相手の気持ちになって考えるよう気を配りながらトイレ、入浴などの介助に携わっている。	認知症に対する理解を持って、入居者が恥ずかしい思いをしないように、不快な気持ちを我慢しないでいられるように今後も暖かい介護を期待する。入居者の穏やかなのびのびした表情から日頃の職員や入居者同士の関係が想像され
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と過ごす時間を大切にし、思いを伝え自己決定出来る環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活を大切に考えています。共同生活なので決まりもありますが、朝食時間や入浴時間などは希望に合わせる事が出来ます。散歩や買い物等の支援も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい生活を大切にし、おしゃれが楽しめていると思います。必要に応じて、ご家族様の理解も求めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備の手伝いも楽しそうに手っだって下さいます。食事の時間の会話も大切にし、職員も共に楽しい時間になるように過ごしています。	ユニットごとを買ってきた食材でメニューを考えて作る料理は見た目も味も良い。食事時には台所から美味しそうな匂いが流れ、職員も一緒に席に着き和気あいあいとした雰囲気です。食事制限のある人には医師の指示に従い料理を出している。	食器拭き、野菜の下ごしらえ、テーブル拭きなど、入居者にできることをどんどんしてもらっているので活気がある。メニューは入居者の好みなども考慮してバラエティーに富んでいる。今後も家庭的で活気ある食事風景が続くよう支援を続けられたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	個々の健康管理の一環として、食事・水分量の把握を行い記録に残しています。必要に応じ医療機関へ報告しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の歯科往診を始め、個々の状態に合わせた口腔ケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄状態に合わせたケアを行っています。トイレでの排泄につながるように声かけ等を行っています。	昼間はほとんどの人がリハビリパンツを使用している。トイレの自立度は高い。夜間は3度の巡視をしているがぐっすり睡眠をとれるようにおむつの人もいる。	失敗がなくても入居者自身が安心のためリハビリパンツを使用しているケースもあるかと推測されるが、できるだけ普通のパンツで自尊心を高めるような支援もされたい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、飲食に取り入れ、また運動も勧めるようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	安全でゆっくりとした入浴を楽しめるように支援しています。希望があれば毎日の入浴も可能ですが、見守り等の安全に配慮し午後入浴をお願いしています。	明るく清潔な風呂場で、大体一日おきに、午後の時間に入浴している。一人ひとりお湯を入れ替え、清掃を行っている。	入浴を面倒がる入居者にも声掛けに工夫をして入浴を楽しんでもらっている。心身共にリラックス出来るので入浴を済ませた人は皆気持ちよさそうで、中には丁寧に化粧水をつけている方も見られた。

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や健康状態に合わせて休息や入眠出来るように環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師との連携も大切にし個々の服薬管理を行っています。服薬内容もすぐに確認が出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活習慣や状態に合わせて支援を続けています。家事や掃除買い物など役割作りをしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や日々の買い物等の希望に応じて出かけるようにしています。また思いに気づき声をしています。普段行けないような場所へは、ご家族様の協力も得て出かけられるようにしています。	門扉を入ると玄関までの間に花壇やベンチが置かれた憩いのスペースがあり、海風を感じながらゆったり過ごせる場である。苺や野菜を植えて楽しんでいる。日常的に買い物や散歩は難しいが家族の協力を得て外出することもある。	玄関前の花壇や畑をより一層充実させれば、これからの季節、入居者が日々外の空気を楽しむ事が出来るし建物の外観が一層親しみやすいものになると考えられるので検討されてはどうか。春、秋の遠足や外食も入居者の楽しみになっている。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状態や希望に合わせて支援出来るようにしています。ご家族様の理解を得て協力してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	友人や家族様との電話や手紙のやり取りを続ける事を大切に考え支援を続けています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活する入居者様・家族様にとって心地よい空間となるように配慮しています。季節感や生活音は大切にしています。	広くて明るい居間の一角には畳の間がありベットも置いてある。テーブルと椅子、ソファがあり、入居者はそれぞれ好みの場所でくつろいでいる。壁には楽しそうな入居者の笑顔の写真や訪問してくれた小学生からの手紙、寄せ書きが貼られている。大きくわかりやすい手作りの日めくりがかけられている。	音楽がかけられると入居者の様子もリラックスしているように見えた。とても穏やかな表情で自由に過ごしている様子で職員との語らいも親しみがある。テーブルの上に何か手仕事できるような物やお手玉等を置いておくと、また脳の活性化にも役立つのではないかと、検討されることを希望する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや庭のベンチがあります、ダイニングのテーブルや椅子も、みんなで集まり落ち着く場になっているようです。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	不安が少しでも軽減され、安心して生活が始められるように、使い慣れた物を持参していただいています。布団、たんす、鏡台などを持参してもらっています。	入居者の好みの物や大切な物、家具に囲まれて壁にも思い思いのものを貼り付け居心地のよい部屋になっている。	窓からの景色もよく、自分の好みのものを置くこともできとても清潔で居心地の良さそうな部屋が多いように見えた。終の棲家として自分らしく過ごせるように支援を願う。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を見極め、思いを受け取り声かけをしています。当り前の毎日を楽しく過ごせるようにしています。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない